山梨県笛吹市

椚田遺跡

-春日居びゅーほてる増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

2008 春日居びゅーほてる 笛吹市教育委員会 埋蔵文化財発掘調査支援協同組合

例 言

- 1. 本書は、山梨県笛吹市春日居町鎮目字小島田に所在する 椚田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2. 発掘調査は宿泊施設増築に伴う事前調査として、事業者の春日居びゅーほてるより埋蔵文化財発掘調査 支援協同組合(以下「埋文協」と表記)が委託を受けて、笛吹市教育委員会指導のもと平成 19 年度に実 施した。
- 3. 本報告書の執筆は、埋文協 調査研究員 白崎智隆及び岩崎 祥が行い、編集は白崎智隆が行った。
- 4. 発掘作業から報告書作成に至るまでの過程で各方面から賜った御協力については、本文中の第3章第3節に記載した。
- 5. 発掘調査の成果品である図面・写真等の諸記録及び出土遺物は、笛吹市教育委員会が保管している。

本文目次

第1章 総説	1	第3章 調査方法	3
第1節 調査の概要	1	第1節 発掘作業	3
(1) 発掘調査に至る経緯	1	第2節 整理作業	5
(2) 本調査の経過	1	第3節 報告書作成作業	5
(3) 整理作業の経過	1	第4章 遺構と遺物	6
第2節 調査体制	1	第1節 概要	6
第2章 遺跡の環境	2	然 0 然 图	6
第1節 地理的環境	2	举 9 然 1. 1	6
第2節 歴史的環境	2	笠を音 ましめ	10
		挿図目次	
図1 遺跡の位置と周辺遺跡	3	図 5 1 号竪穴住居跡出土遺物	8
図2 本調査範囲と周辺地形	3	図 6 2 号竪穴住居跡出土遺物	9
図3 遺構配置図	5		9
図4 1 号竪穴住居跡及び2 号竪穴住居跡	7		
		表目次	

表 1 出土遺物観察表

11~12

図版目次

図版1 全景,作業風景, SI01遺物出土状況, SI01完掘, SI01電

図版 2 SI01電左袖内遺物出土状況, SI02遺物出土状況, SI02完掘, SI02電, SK01, SK02, SK03·SK04

図版3 SI01出土遺物

図版4 SI02出土遺物

第1章 総 説

第1節 調査の概要

(1)調査に至る経緯

平成 18 年 7 月 26 日, みずほ信不動産販売株式会社を通じて, 春日居びゅーほてる(以下「事業者」と表記) からの宿泊施設増築計画に伴う「土木工事等予定地内における埋蔵文化財包蔵地の有無及びその取り扱いについて」の照会が笛吹市教育委員会(以下「市教委」と表記)にあった。市教委は、照会地が周知の埋蔵文化財包蔵地であり、増築計画によっては試掘確認調査を実施する必要がある旨の回答を行った。この回答を元に、平成 19 年 2 月 20 日付けで文化財保護法第 93 条第 1 項による届出が提出され、事業者と市教委で遺跡の取り扱いについて協議した結果、平成 19 年 3 月 19・20 日に市教委が事業地内の試掘確認調査を実施する運びとなり、この調査によって竪穴住居跡 2 軒の存在が確認された。この調査結果をうけて、平成 19 年 3 月 20 日に事業者と市教委との間で宿泊施設増築計画に関する協議を再度行い、遺構を検出した調査区東側(100㎡)の発掘調査を実施して記録保存を行うこととなった。

平成19年3月23日,事業者より埋文協山梨支部の昭和測量株式会社を通じて発掘調査に関する見積依頼があった。その後,平成19年3月27日付けで市教委,事業者及び埋文協との間で埋蔵文化財発掘調査に関する三者協定を,事業者と埋文協の間で笛吹市椚田遺跡に係わる埋蔵文化財発掘調査業務の委託契約を締結し、平成19年3月28日より発掘調査を開始した。

(2) 発掘調査の経過

発掘調査は100 m²を対象に行った。発掘作業の工程は次の通り。

【機材搬入 (3/28) · 表土除去 (3/28) · 遺構検出 (3/28) · 遺構精査 $(3/28\sim4/4)$ · 写真撮影 $(4/3\sim4/5)$ · 遺構図面作成 $(3/30\sim4/5)$ 】

4月5日に機材の搬出・撤収作業を行い、翌6日に市教委による発掘調査終了の確認が行われた。

(3) 整理作業の経過

整理作業は、埋文協西関東整理事務所(山梨支部:昭和測量株式会社峡東支店内)で実施した。 出土遺物量は、整理箱(内寸:545×336×150 mm) 8箱であった。整理作業の工程は次の通り。

【遺物の移送 (4/5) ・水洗 $(4/9\sim4/15)$ ・注記 $(4/16\sim4/19)$ ・接合・復元 $(11/20\sim12/20)$ ・実測 $(12/25\sim1/22)$ ・トレース $(1/21\sim1/31)$ ・写真撮影 (2/1) 】

以上の作業と並行して、写真整理・台帳清書を行い、山梨支部の図面整理作業の完了を受けて、報告書編集作業を行い、印刷所に入稿した。

第2節 調査体制

調査は笛吹市教育委員会が指導し、埋文協が実施した。西関東整理事務所(山梨支部:昭和測量株式会社 峡東支店内)で雇用する作業補助員のうち発掘作業に6名、整理作業に4名が従事した。

以下に、調査担当者及び関係者名を掲げる。

調查担当者:岩﨑祥(調查主任:埋文協調查研究員),白﨑智隆(整理作業:埋文協調查研究員)

測量担当書:相川喜美雄(昭和測量),早川徹(昭和測量)

補 助 員:小幡浩子,高田和子,立花重光,栃原好美,内藤章江,中山求成(以上発掘作業),小幡浩子, 高田和子,立花重光,栃原好美(以上整理作業)

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

椚田遺跡は笛吹川扇状地の扇端部,平等川と笛吹川の中間にあたる標高 278mの自然堤防上に立地する。 調査地点は遺跡範囲の南端部で、JR中央本線石和温泉駅から北東に 1.2km,中央自動車道一宮御坂ICから北西に約4kmの位置に所在する。周辺は従来,水田や桑畑として利用されていたが、現在は果樹園と宅地が広がる。調査前の状況は駐車場であった。

第2節 歷史的環境

椚田遺跡が所在する笛吹市は、古墳時代末から平安時代にかけて甲斐国の中心地であり、数多くの遺跡が存在する。本遺跡は、甲斐国分僧寺・国分尼寺から北西に約4km、甲斐国府が所在したと考えられている御坂町国衙からは北に約3kmの位置にある。遺跡周辺は、古墳時代末~奈良時代に政治的な拠点であったと考えられ、調査地点から約400m東には甲斐国総社の甲斐奈神社が、約900m東には寺本廃寺や国府遺跡が存在する。寺本廃寺は寺域が約130m四方で、法起寺式の伽藍配置を持つ。寺の性格については諸説あるが、現在では氏寺・官衙付属寺院とする説が有力で、春日居古墳群を築造した豪族により7世紀末に創建されたと考えられている。国府遺跡は初期の国府または山梨郡衙と推定されている遺跡で、検出された礎石建物跡は出土した炭化米から正倉跡と考えられている。このほか、国府関連遺跡として本遺跡の東側に大中寺遺跡、北側に熊野南遺跡、北東に神東町遺跡が存在する。また、春日居町鎮目から国府あたりにかけては条里制地割が認められている。

1988年に春日居町教育委員会により実施された隣接地の調査では、古墳時代後期の竪穴住居跡3軒、平安時代の竪穴住居跡2軒が検出された。平安時代の遺物として、緑釉陶器や鉄鏃、鉄製紡錘車などが出土しており注目される。また、古墳時代の住居跡からは鉄鉗と考えられる鉄製品が出土していることから、近隣に何らかの製鉄関連遺構が存在する可能性が高いと考えられる。

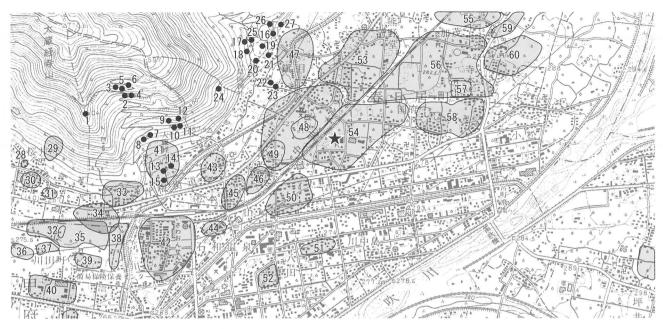
第3章 調查方法

第1節 発掘作業

調査区には、世界測地系第IX系、X=-37, $475 \cdot Y=13$, 205 を基点として 5 m 方眼を設定した。表土除去は重機を用いた。確認調査の結果を参考に、0.3 m バックホウで遺構確認面まで掘削し、その後、人力による遺構確認作業及び精査を行った。検出した遺構の番号は、遺構の種類毎に略記号で区分し、検出した順に番号を付した。記号は、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所に準拠し、竪穴住居跡はSI, 土坑はSKと表記した。平面形態を確認した遺構は、土層観察畦を設定し、遺構内に伴う遺物に留意しながら土層の堆積状況を観察しつつ精査を行った。また、遺構内から出土した遺物は出土順に番号を付した。ただし、覆土中の小破片については各遺構一括出土遺物として扱った。

遺構図面の作成は土層断面図を除いてトータルステーション(Nikon-Trimble FALDY EN3)を用いて行った。 成果は測量編集ソフトウェア(AutoCAD2005・SOARS+)で DXF 形式ファイルに変換して出力した。

写真撮影には、中判カメラ (MAMIYA RB-67 レンズ:65mm,127mm) をモノクローム用に、35 mm判カメラ



1.	鞍掛塚古墳	11.	大蔵経寺山遺跡	21.	へび塚古墳	31.	鳥居遺跡	41.	大蔵経寺遺跡	51.	大郭遺跡
2.	七つ石1号墳	12.	(大蔵経寺東古墳東)	22.	(無名墳)	32.	銀杏之木遺跡	42.	松本塚ノ越遺跡	52.	八田屋敷内遺跡
3.	七つ石2号墳	13.	道祖神塚古墳	23.	(無名墳)	33.	小石田遺跡	43.	大西遺跡	53.	熊野南遺跡
4.	七つ石3号墳	14.	さんごうじ古墳	24.	御室山古墳	34.	畦作遺跡	44.	三門遺跡	54.	椚田遺跡
5.	七つ石 4 号墳	15.	(大蔵経寺前古墳群)	25.	寺の前1号墳	35.	北田遺跡	45.	中直遺跡	55.	加茂東遺跡
6.	七つ石5号墳	16.	はたおり塚古墳	26.	平林2号墳	36.	亀田遺跡	46.	古屋敷遺跡	56.	神東町遺跡
7.	(大蔵経寺東古墳西)	17.	(無名墳)	27.	死人2号墳	37.	久保田遺跡	47.	保雲寺橋遺跡	57.	寺本廃寺
8.	(大蔵経寺東古墳西)	18.	狐塚古墳	28.	東組遺跡	38.	北村遺跡	48.	大侭遺跡	58.	大中寺遺跡
9.	(大蔵経寺東古墳東)	19.	(無名墳)	29.	横根・桜井積石塚古墳	39.	川田館跡	49.	後田遺跡	59.	加茂西遺跡
10.	(大蔵経寺東古墳東)	20.	寺の前2号墳	30.	清水遺跡	40.	桜井畑遺跡	50.	伊勢の宮遺跡	60.	春日神社裏遺跡
-)	は未命名の古墳。

図1 遺跡の位置と周辺遺跡(S=1/25,000)

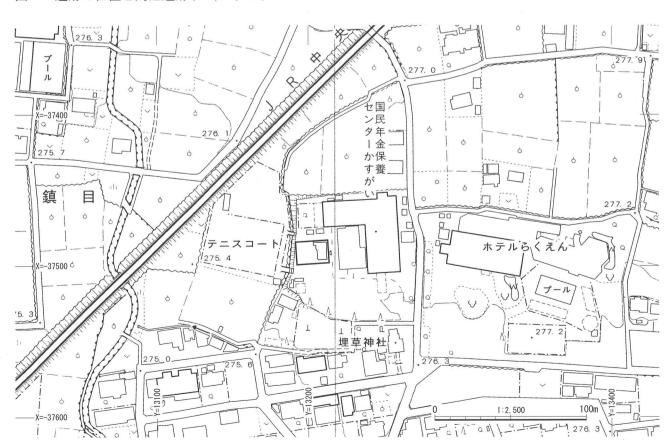


図2 本調査範囲と周辺地形

(Nikon F80 レンズ: $24mm \sim 85mm$) カラーリバーサル,モノクローム用に使用した。補助としてデジタルカメラ (Canon IXY DIGITAL 5.0 MEGAPIXELS) も使用した。使用フィルムは FUJIFILM NEOPAN 100 ACROS,FUJIFILM PROVIA 100 F である。撮影したモノクロームフィルムは,密着プリントと併せてネガアルバムに保存し,駒ごとに説明を付した。カラーリバーサルフィルムは,遺構ごとにシートに分けてスライドファイルに収納した。また,それぞれの写真台帳を作成した。

第2節 整理作業

出土遺物への注記作業は市教委の指示により、遺跡名と調査年度、遺構略記号、検出遺構番号を記した。 また、遺物台帳に出土した場所及び標高、遺物取り上げ年月日を記載した。遺物への注記は下例のように行った。

(注記例) 椚田遺跡 平成 18 年度 1 号竪穴住居跡出土 1 番遺物 → クヌギダ H. 18 SI01 No. 1

注記が完了した遺物は、本来の形状を復元できる資料を中心に接合・復元作業を実施した。欠損部の充填 には 有限会社新成田総合社製品のバイサムを用いた。また、欠損部の多い資料については無理な推定復元を 行わず、補強をするに止めた。

実測は全て手測りで行い,原図をスキャナーで取り込み,コンピュータによるデジタルトレースを行った。 遺物の写真撮影は中判カメラ (MAMIYA RB-67 レンズ:127mm モノクローム) を用いた。撮影したフィルムは,密着 プリントと併せてネガアルバムに保存し,写真台帳を作成した。

第3節 報告書作成作業

報告書の作成に関わる執筆と全体編集は、埋文協 西関東整理事務所(山梨支部:昭和測量株式会社峡東支店内)にて行った。第1章第1節の執筆は岩崎 祥が行い、その他の本文の執筆、挿図・表・図版の作成、遺物の写真撮影及び報告書全体の編集は白崎智隆が行った。

なお執筆にあたって,大嶌正之(甲斐市教育委員会)・小渕忠秋(笛吹市教育委員会)から御教示を賜った(五十音順・敬称略)。記して謝意を表したい。

遺構実測図は、埋文協 山梨支部 昭和測量株式会社が作成した DXF 形式ファイルを編集し、既存の地形図及び遺物実測図は、スキャナーで取込んだ EPS 形式ファイルを編集して原稿とした。編集には、Photoshop Ver. 6.0 (ADOBE)、Illustrator Ver. 10.0 (ADOBE)を使用した。

既存の地形図は、縮尺 1/25,000 及び 1/2,500 図を使用し、図1・2 は以下を用いて作成した。

図 1 春日居町発行 1/2,500 都市計画基本図「WII-LE 23-3」(平成8年測量)

図 2 国土地理院発行 1/25,000 地形図「石和」(NI-54-31-7-1)(平成8年7月1日発行)

各種測量図・実測図の縮尺は以下の通りとした。また、挿図中の尺度にも縮尺を付記した。

遺構:遺構配置図…1/100,竪穴住居跡…1/80,土坑…1/40

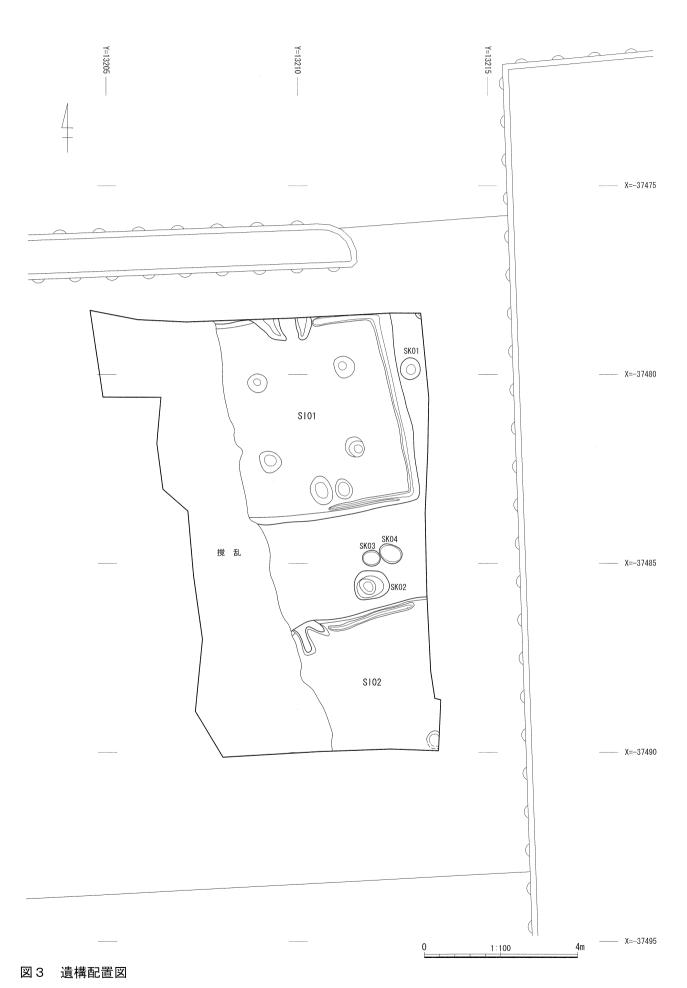
遺物:土師器…1/4, 須恵器…1/4(断面黒塗り)

図1,図2及び遺物実測図には、以下の箇所に網かけを用いた。

図1…遺跡範囲

図2…発掘調査範囲

遺物実測図…土師器の赤彩部分



第4章 遺構と遺物

第1節 概要

調査により検出した遺構は、竪穴住居跡2軒、土坑4基である。調査区西側は、暗渠により遺構が消滅していた。また、発掘調査を行った範囲が狭いため、竪穴住居跡などはいずれも部分的な検出にとどまり、遺構全体の把握には至っていない。

第2節 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡(SI01) (図4・5, 図版1~3)

位置:調査区北側 主軸方位:N10W 形態:方形 規模:東西5.0m(推定)×南北5.4m 深さ46 cm 柱穴:6口を検出。P1~P4が主柱穴。P5は出入り口に伴うピットと考えられる。 床面:砂質土により構築。竃の前面で硬化面を検出。 周溝:住居跡東半部で検出。本来は全周していたと考えられる。 燃焼施設:北壁中央で竃を検出。燃焼部で支脚となる石が出土。重複関係:なし 出土遺物:土師器坏5点,高坏2点,須恵器坏1点,須恵器台付坏1点,須恵器蓋3点,土師器甕6点,手捏ね1点を図示した。このほか図示はできなかったが、体部外面に稜を有する土師器坏や黒色処理された土師器坏、赤彩された土師器高坏の破片も出土した。須恵器蓋8・9は、竃左袖の中から合子状に出土した。土師器甕は14~17 などの長胴甕が主体である。しかし、17 のように底部が丸底となる例は周辺地域では認められず、住居跡に伴うかどうかも含めて注意が必要である。また13 の小型甕は、口縁部から胴部上半部が竃内から逆位で出土している。2号竪穴住居跡(S102)(図4・6、図版2・4)

位置:調査区南側 主軸方位:N14W 形態:方形か 規模:北壁のみの検出のため不明。深さ 31 cm 柱穴:1口を検出。主柱穴は不明。 床面:砂質土により構築。硬化面は検出できなかった。 周溝:北壁で検出 燃焼施設:北西隅で竃を検出 重複関係:なし 出土遺物:土師器坏2点,土師器皿3点,土師器甕4点,柱状高台坏3点,鉄製鎌1点を図示した。土師器坏(1)や土師器皿(3~5)の口唇部は玉縁状に肥厚する。このほか図示しなかったが、底部回転糸切り後未調整の須恵器坏なども出土した。また、口縁部が肥厚する土師器甕破片の出土が目立った。10~12 の柱状高台坏は混入したものと考えられる。

第3節 十坑

1号土坑(SK01) (図7・図版2)

位置:調査区北東部 主軸方位:NO 形態:平面は円形。底面は丸底 規模:57×53 cm 深さ 16 cm 出土遺物:なし

2号土坑(SK02) (図7・図版2)

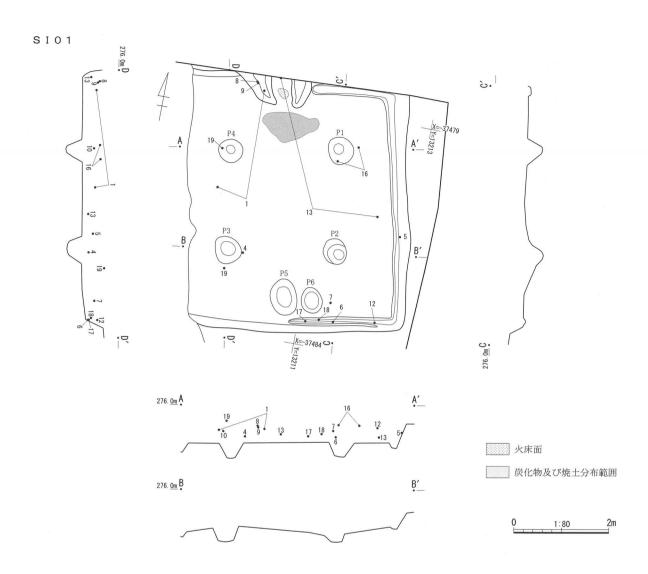
位置:調査区中央部 主軸方位: N74E 形態: 平面は楕円形 規模: 92×76 cm 深さ 26 cm 特記事項: 試掘調査時に土坑の直上で焼土を検出 出土遺物: なし

3号土坑(SK03)(図7·図版2)

位置:調査区中央部 主軸方位: N79E 形態: 平面は円形。底面は平坦 規模: 48×42 cm 深さ 9 cm 出土遺物: ロクロ整形の土師器坏及びハケ調整の土師器甕の小片が数点出土。図示はしなかった。

4号土坑(SK04) (図7・図版2)

位置:調査区中央部 主軸方位: N60W 形態: 平面は円形。底面は平坦 規模: 62×50 cm 深さ8 cm 出土遺物: ロクロ整形の土師器坏及びハケ調整の土師器甕の小片が数点出土。図示はしなかった。



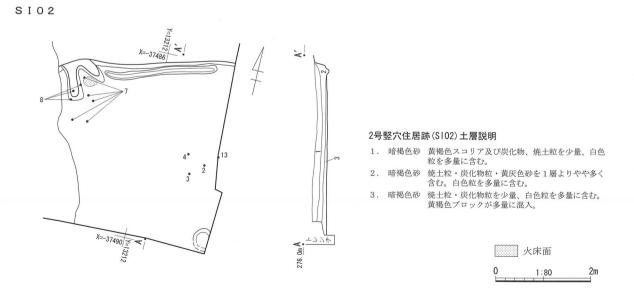


図4 1号竪穴住居跡(SI01)及び2号竪穴住居跡(SI02)

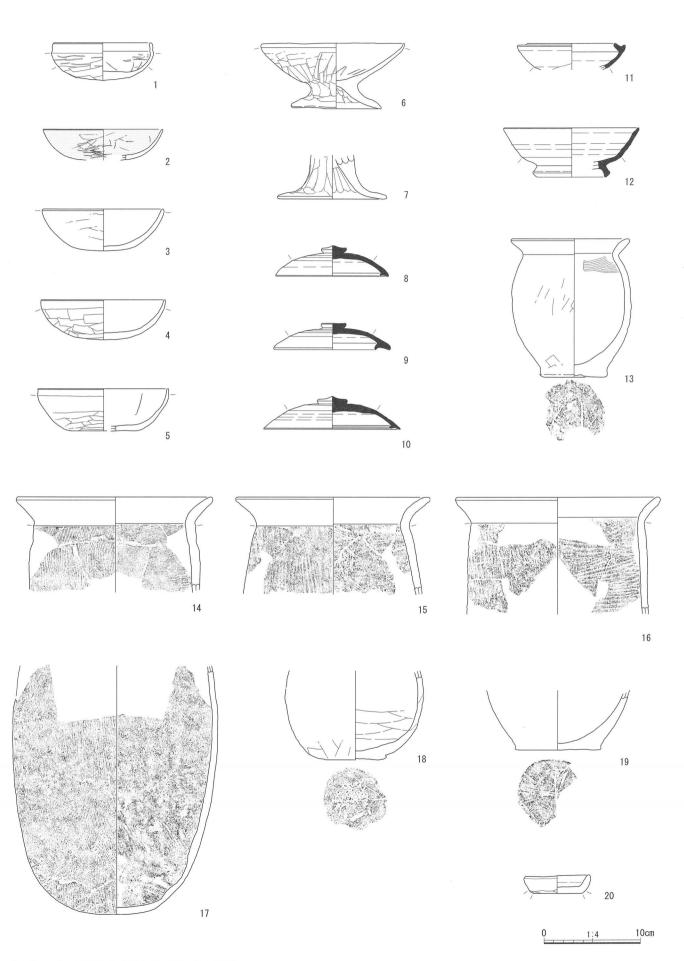


図5 1号竪穴住居跡(SI01)出土遺物

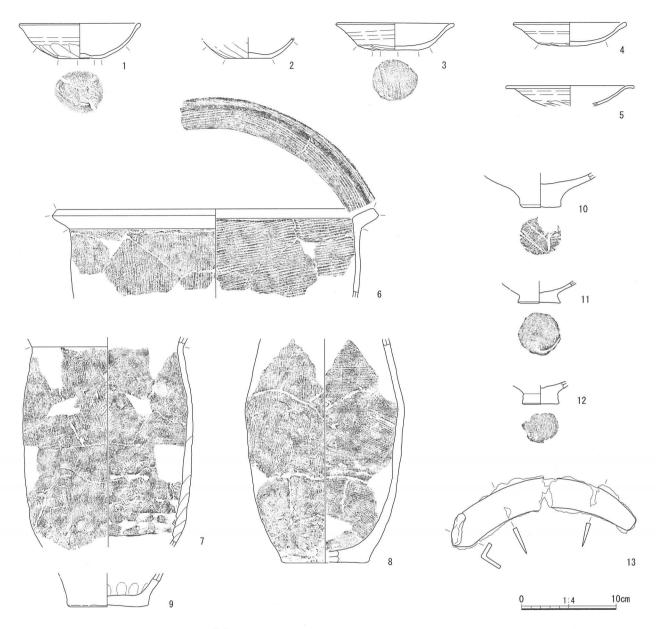


図6 2号竪穴住居跡(SI02)出土遺物

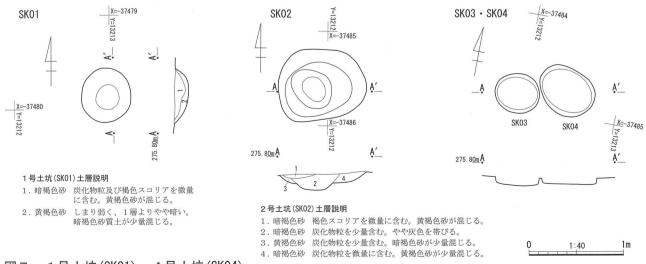


図7 1号土坑(SK01)~4号土坑(SK04)

第5章 まとめ

調査の結果,竪穴住居跡2軒,土坑4基を検出した。1988年に行われた隣接地の調査では5軒の竪穴住居跡を検出していることから,調査面積から考えると調査区周辺は比較的遺構密度の高い地点と考えられる。

今回の調査で検出した遺構の時期は次のとおりである。時期決定は山梨県における土器編年を参考に行った。

· 1 号竪穴住居跡: 古墳時代末(7世紀後葉)

• 2 号竪穴住居跡:平安時代(10 世紀中葉)

・1号~4号土坑:平安時代

1号竪穴住居跡は西壁が暗渠により壊されていたが、その大半を調査することができた。出土遺物も豊富である。時期決定の根拠としたのは、須恵器坏(11)や須恵器蓋($8\sim10$)である。口縁部内面にかえりを持つ特徴などから、7世紀後葉と考えた。非ロクロ整形の土師器坏やハケ調整された土師器甕もほぼこの時期のものと考えられる。ただし、土師器坏(1)は7世紀中葉、須恵器高台付坏(12)は8世紀に比定されると考えられるため、他の出土遺物とはやや年代に差があり、混入したものである可能性がある。

2号竪穴住居跡は、西壁が暗渠により壊され、南壁と東壁が調査区外であった。住居跡全体を調査できなかったため他の遺構との重複は不明だが、柱状高台皿(10~12)が覆土中より出土していることから、11世紀以降の遺構が本竪穴住居跡に近接して存在すると推測される。

土師器坏 $(1\sim2)$ や土師器皿 $(3\sim5)$ には、10世紀末葉には消滅する体部下端及び底部調整が認められるため、10世紀前葉~中葉に比定されると思われる。また、土師器甕(6)の口縁部が肥厚する特徴から、これらの遺物の時期も土師器坏・皿の年代とほぼ整合する。このことから、本竪穴住居跡の時期を 10 世紀中葉と考えた。

土坑は、出土遺物が乏しく時期決定が困難である。3号土坑からはロクロ整形の土師器坏の小片が出土していることから、平安時代の所産と考えられる。他の土坑からは遺物の出土は皆無であり、時期決定は困難であるが、覆土が似ることなどから同じく平安時代と推測した。

以上,今回の調査における成果を概観した。隣接地にみられたような特殊な遺物は出土しなかったが、住居跡の営まれた時期はほぼ同一であり、1988年の調査を補完する結果を得ることができた。しかし、遺跡範囲に比して調査が行われた面積は狭小であり、国府関連遺跡とされている椚田遺跡の全体像を把握するには、さらなる調査事例の蓄積が必要であり、今後の調査が期待される。

参考文献

内田裕一・十菱駿武 1989 『椚田遺跡』春日居町教育委員会

内田裕一 1998 「国府遺跡」『山梨県史 資料編1』山梨県

内田裕一 1998 「寺本廃寺」『山梨県史 資料編1』山梨県

坂本美夫 1999 「4 古墳時代の編年」『山梨県史 資料編2』山梨県

山下孝司・瀬田正明 1999 「5 奈良・平安時代の編年」『山梨県史 資料編2』山梨県

表 1 出土遺物観察表

1号竪穴住居跡(SI01)

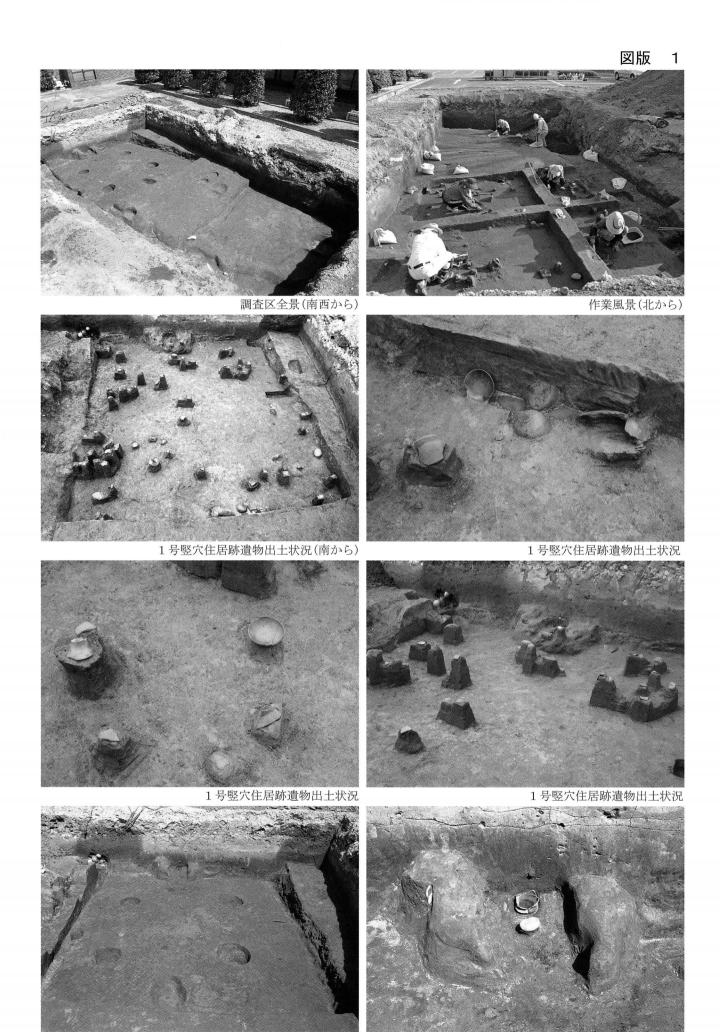
			101)			
番号	器 種	法 量	(mm)	調整の特徴	胎 土・色 調・焼 成	備考
1	土師器 坏		40	口縁部は横ナデ。体部外面上半はナデ後雑なミガキ。体部 外面下半はヘラケズリ。内面はヘラナデ後雑なミガキ。外 面黒色処理か。	赤色粒を中量,砂粒を少量,小角礫を微量 含む。外面黒褐色。内面褐色。焼成は良 好。	口縁部1/4残存 No. 21, 65
2	土師器 坏	口径 1 器高 底径	24 33 —	口縁部は横ナデ。体部外面はヘラケズリ後雑なミガキ。内 面はナデ後雑なミガキ。内外面とも赤彩。	細砂粒・赤色粒を少量、雲母を微量含む。 内外面とも暗赤褐色。焼成は良好。	口縁部1/2残存
3	土師器坏	口径(1 器高 底径	27) 45 —	ロ縁部は横ナデ。体部外面は磨滅著しく調整不明瞭だが, ヘラケズリか。内面はナデ。	砂粒を中量,赤色粒・雲母を少量含む。内 外面ともにぶい黄橙色。外面の一部黒褐 色。焼成は良好。	1/4残存。 一括
4	土師器	器高	30 43 —	外面は口縁部を横ナデ,体部〜底部を手持ちへラケズリ。 内面はナデ。	赤色粒を中量、細砂粒を少量、黄色粒を微量含む。精選された胎土。内外面とも褐色。焼成は良好。	口縁部の一部を欠損 No. 41
5	土師器 坏		36) 45 68)	外面は口縁部を横ナデ,体部上半をナデ,体部下半〜底部をヘラケズリ。内面は体部をヘラナデ,底部をナデ。	赤色粒・細砂粒を少量含む。精選された胎 土。内外面とも橙色。焼成は良好。	1/3残存。 No. 50, 一括
6	土師器 高坏		50 70 94	ロ縁部横ナデ。体部〜脚部外面はヘラケズリ。坏部内面は ヘラナデ後横ナデ。脚裾部横ナデ。	赤色粒を中量,砂粒・雲母を少量含む。内 外面とも暗褐色。焼成は良好。	完形 No. 55
7	土師器高坏	器高(- (47) 08	脚部外面は縦位ヘラケズリ。内面は横位ヘラケズリ。脚裾 部横ナデ。	砂粒・赤色粒を中量、白色粒を微量含む。 内外面ともにぶい橙色。焼成は良好。	脚部1/2残存 No. 56
8	須恵器 蓋	器高	19 28 90	ロクロ整形。天井部回転ヘラケズリ。外面に自然釉付着。	黒色粒を多量,長石の小角礫を少量含む。 内外面とも灰白色。焼成は良好で硬質。	完形(湖西産か) NO. 63
9	須恵器 蓋		17 33 00	ロクロ整形。天井部回転ヘラケズリ。外面に自然釉付着。 つまみは頂部が平坦になる。	黒色粒を少量含む。内外面とも灰白色。焼成は良好で硬質。	完形(湖西産か) NO. 64
10	須恵器 蓋	蓋径(1 器高 受径(1	35	ロクロ整形。天井部回転ヘラケズリ。外面に自然釉がわず かに付着。	黒色粒を少量,長石・石英の小角礫を微量含む。内外面とも灰白色。焼成は良好。	3/5遺存(湖西産か) NO. 19・一括
11	須恵器 坏	口径(1 器高 〈 底径	10) (28) —	ロクロ整形。体部外面下半は手持ちヘラケズリ。	黒色粒を微量含む。内外面とも灰色。焼成は良好で硬質。	2/5遺存(湖西産か) 一括
12	須恵器 高台付坏		.40) 53 (70)	ロクロ整形。体部外面下端は回転へラケズリ。	黒色粒を少量含む。内外面とも灰白色。焼 成は良好で硬質。	2/5遺存(湖西産か) No. 60・一括
13	土師器 甕	器高 1	20 .47 64	口縁部横ナデ。外面は器面の剥離が著しく,調整不明瞭。 胴部はヘラナデ、胴部下端はヘラケズリか。底部外面は木 葉痕が残る。内面は横位ハケ調整後ナデ。	小角礫を多量, 雲母・赤色粒を少量含む。 内外面とも明赤褐色。焼成は良好。	胴部を一部欠損 No. 48, 66, 一括
14	土師器 甕	口径(2 器高〈1 底径		口縁部はハケ調整後横ナデ。胴部外面は縦位ハケ調整。内面は横位ハケ調整。	砂粒を中量,赤色粒を少量含む。外面黒褐色。内面暗褐色。外面の一部にスス付着。 焼成は良好。	口縁部1/5残存 一括
15	土師器 甕	口径(2 器高(1 底径		口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位ハケ調整。内面は横位ハ ケ調整。内外面とも器面が荒れているため調整不明瞭。	雲母を多量、砂粒を中量、赤色粒及び小角 礫を少量含む。砂っぽい胎土。外面は橙 色。内面はにぶい褐色。焼成は良好。	口縁部1/5残存 一括
16	土師器 甕	口径(2 器高(1 底径		口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位ハケ調整。内面は横位ハ ケ調整。器面が荒れているため調整不明瞭。	粗い砂粒を多量,長石・石英等の小角礫を 中量,赤色粒を少量含む。内外面ともにぶ い褐色。焼成は良好。	口縁部1/4残存 No. 14, 16, 一括
17	土師器	口径 器高〈2 底径	- 264> -	胴部外面は縦位ハケ調整。底部は丸底で外面はハケ調整される。内面は斜位または横位ハケ調整後ナデ。一部に指頭 圧痕。	粗い砂粒を中量、赤色粒及び小角礫を少量 含む。内外面とも橙色。外面の一部は黒褐 色。焼成は良好。	胴部1/2欠損 No. 53
18	土師器 甕		- (94) 66	胴部外面はナデ, 胴部下端はヘラナデ。器面が荒れている ため調整不明瞭。内面はヘラナデ後ナデ。底部に木葉痕。	粗い砂粒を多量、雲母を中量、赤色粒及び 小角礫を少量含む。外面明褐色。内面暗褐 色。焼成は良好。	胴部下半~底部 No. 54
19	土師器		- (63) 75	内外面ともナデ。底部に木葉痕。	砂粒を中量,赤色粒を少量含む。外面にぶ い黄褐色。内面にぶい褐色。焼成は良好。	底部1/3欠損 No. 38
20	土師器 手捏ね	器高	65 20 50	外面は横ナデ後体部下端手持ちヘラケズリ。底部は磨滅し 調整不明。	砂粒,赤色粒,白色粒,雲母を中量含む。 砂っぽい胎士。内外面とも暗褐色。焼成は 良好。	1/4欠損 2 Tr覆土一括

※法量欄の()は復元値、〈〉は遺存値を示す。

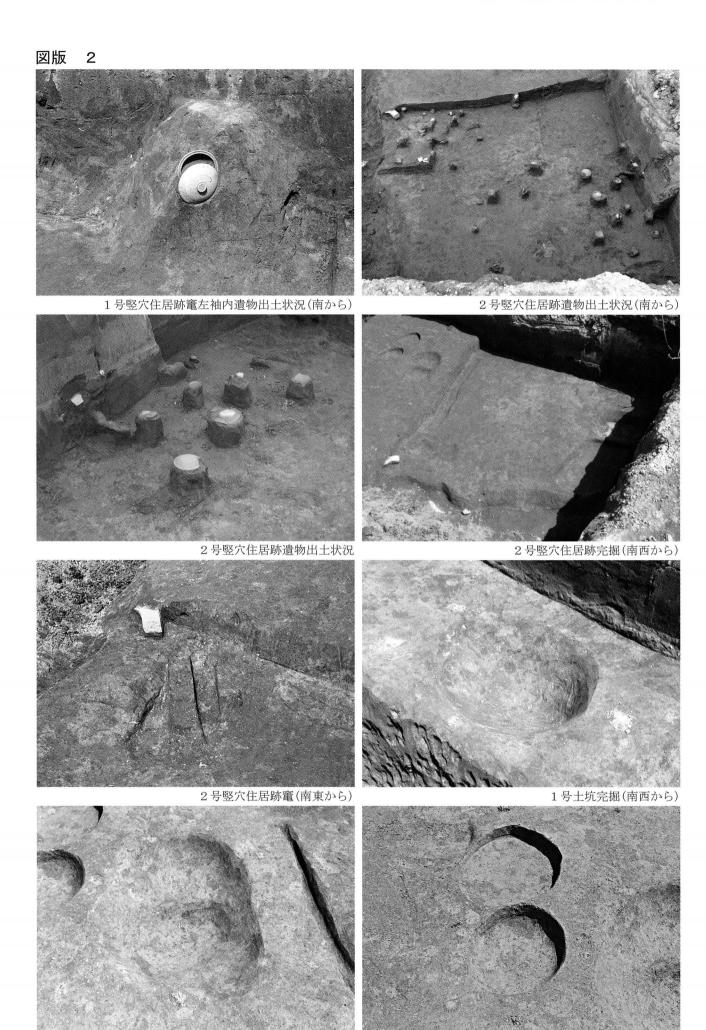
2 号竪穴住居跡(SI02)

番号	器 種	法	量(mm)	調整の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	土師器 坏	口径器高底径	125 29 43	ロクロ整形。底部は回転糸切り後一部を手持ちヘラケズ リ。体部下端は斜位の手持ちヘラケズリ。ロ唇部は玉緑 状。	赤色粒を中量、白色粒及び砂粒を少量含む。外面橙色。内面褐色。焼成は良好。	口縁部1/4残存 4 Tr覆土一括
2	土師器 坏	口径器高底径	- (20) 50	外面は体部下端を斜位の手持ちヘラケズリ。底部回転糸切り後全面手持ちヘラケズリ。内面はナデ。	赤色粒を中量、雲母及び砂粒を少量含む。 外面橙色。内面にぶい橙色。焼成は良好。	口縁部欠損 No. 33
3	土師器皿	口径器高底径	125 29 43	ロクロ整形。底部は回転糸切り後全面手持ちヘラケズリ。 体部下端は手持ちヘラケズリ。 ロ唇部は玉縁状。	赤色粒を中星、砂粒を少量、白色粒を微量 含む。内外面とも橙色。焼成は良好。	口縁部2/5欠損 No. 34
4	上師器皿	口径 器高 底径	121 25 44	ロクロ整形。底部は全面手持ちヘラケズリ。ロ唇部は玉縁 状。	赤色粒を多量、細砂粒を少量含む。白色の 粘土が帯状に混ざる。内外面とも橙色。焼 成は良好。	完形 No. 46
5	土師器皿	口径 器高底径	(133) (22) —	ロクロ整形。内面はナデ。口唇部は玉緑状。	赤色粒を多量、大粒の黄色粒を微量含む。 内外面とも明赤褐色。焼成は良好。	口縁部2/5残存 4 Tr覆土一括
6	土師器	口径器高底径	(334) (94) —	外面は口唇部が横位ハケ調整、口縁部がナデ、胴部が縦位 ハケ調整。内面は口縁部及び胴部が横位ハケ調整。口縁部 は肥厚する。	粗い砂粒及び雲母を多量,長石・石英の小 角礫を少量,赤色粒を微量含む。外面明褐 色。内面暗赤褐色。焼成は良好。	口縁部1/4残存
7	土師器	口径 器高 底径	~ \\(212\) ~	胴部外面は弱い縦位ハケ調整。胴部内面は横位または斜位 ハケ調整後ナデ。胴部下半で輪積痕顕著。	砂粒及び雲母を中量,赤色粒を少量含む。 外面は褐色。内面は橙色。焼成は良好。	頸部~胴部1/4残存 No. 4, 7, 10~12, 一括
8	土師器	口径器高底径	- (237) (88)	胴部外面は縦位ハケ調整。胴部下半は磨滅により調整不明 瞭。底部は器表面が剥離し不明瞭だが木葉痕か。内面は横 位または斜位ハケ調整。内底面はナデ。	砂粒を多量,赤色粒及び雲母を中量,小角 礫を少量含む。内外面とも明赤褐色。焼成 は良好。	胴部~底部1/2残存 No. 2, 3, 8, 一括
9	土師器	口径 器高 底径	- (31) 83	外面はヘラナデか。底部は磨滅し調整不明。内面はナデ。 一部に指頭圧痕。	粗い砂粒を多量、雲母を中量、赤色粒及び 小角礫を少量含む。砂っぽい胎士。外面橙 色。内面褐色。焼成は良好。	底部破片 一括
10	土師器 柱状 高台皿	口径 器高 底径	- (36) 40	外面はナデ。内面はヘラナデ後ナデ。底部は切り離し不 明。	赤色粒を中量, 細砂粒を少量, 雲母を微量 に含む。内外面とも橙色。焼成は良好。	皿部欠損 一括
11	土師器 柱状 高台皿	口径 器高 底径	- (23) 45	ロクロ整形。底部は回転糸切り後未調整。底部は磨滅し, 調整不明瞭。高台端部は裾開き状である。	細砂粒を中量、赤色粒を少量含む。やや砂っぽい胎土。内外面とも橙色。焼成は良好。	底部破片 一括
12	土師器 柱状 高台皿	口径 器高 底径	- (24) 39	ロクロ整形。底部は回転糸切り後未調整。底部は磨滅し, 調整不明瞭。高台端部は裾開き状である。	細砂粒を中量、赤色粒を少量含む。やや砂っぽい胎土。内外面とも褐色。焼成は良好。	底部破片 一括
13	鉄製品 鎌	長さ1	89mm, 1	- 福36mm,厚さ8mm,重さ154.1g。		一部欠損 NO. 47

※法量欄の()は復元値, 〈 〉は遺存値を示す。



1号竪穴住居跡北側完掘(南から) 1号竪穴住居跡竃(南から)



2号土坑完掘(西から)

3号土坑・4号土坑完掘(西から)



1号竪穴住居跡-1



1号竪穴住居跡-8



1号竪穴住居跡-14



1号竪穴住居跡-2



1号竪穴住居跡-9

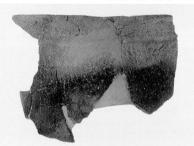


1号竪穴住居跡-15



1号竪穴住居跡-3





1号竪穴住居跡-16



1号竪穴住居跡-4



1号竪穴住居跡-12



1号竪穴住居跡-17



1号竪穴住居跡-5

1号竪穴住居跡-6



1号竪穴住居跡-13



1号竪穴住居跡-18



1号竪穴住居跡-7



1号竪穴住居跡-20



1号竪穴住居跡-19



2号竪穴住居跡-4

2号竪穴住居跡-5

2号竪穴住居跡-6







2号竪穴住居跡-9



報告書抄録

ふり	がな	くぬぎだいせき								
書	名	椚田遺跡	門田遺跡							
副書	名	春日居び	ゅーほて	ゆーほてる増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリー	ズ名	笛吹市文	化財調査	報告書						
シリー	ズ番号	第8集								
編著	者名	白﨑 智隆	隆・岩﨑	祥						
編集	機関	埋蔵文化	財発掘調	查支援協	同組合	(埋文	(協)			
所 在	地	〒169-00	〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-24 TEL03-3365-2277							
発 行 年	月日	2008年4月	30日							
ぁ り が な 所収遺跡名	1	704 75		ード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
*** なしけんぶ 山梨県住 小型県住 村田遺跡 町鎮目与 8 — 1		た。 大市春日居 に * * だ い島田 1 7 —		_	35° 39′ 43″	138° 38′ 44″	2007. 03. 28 ~ 2007. 04. 06	100 m²	宿泊施設増築	
所収遺跡名 種別		主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項		
+HB 177 \48 D+*	集落古墳時		弋終末期	竪穴住居	跡	1 軒	土師器,須恵器			
押田遺跡	集落	平安	平安時代		竪穴住居跡 土坑		土師器,須恵器			

判 型: A4判

頁 数 : 16頁

本 文 組 版 : 14級(10p)明朝を基本

図版製版: 400dpi.200線2色

図版印刷色 : 墨+CF8629

印刷方式: オフセット印刷

用 紙 : 表紙 王子特殊紙テンカラーエンボス皮絞 スカイ4/6判 連量175kg

> 本文 日本板紙淡クリーム琥珀A判 連量57.5kg 図版 王子製紙サテン金藤N菊判 連量76.5kg

©2008 Maibunkyou

笛吹市埋蔵文化財調査報告書 第8集

椚 田 遺 跡

春日居びゅーほてる増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年3月31日 発行

編 集 埋蔵文化財発掘調査支援協同組合(埋文協)

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-24 TEL03-3365-2277

発

笛吹市教育委員会 行

〒406-0031 笛吹市石和町市部 809-1

Tel 055-261-3342

印刷·製本 株式会社 内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央2-10-18

Tel 055-233-0188

The Report of Archaeological Research of KUNUGIDA Site

An Archaeological Survey prior to the Extension of Kasugai View Hotel Building

2008

Kasugai View Hotel Building
Fuefuki City Board of Education
Archaeological Research & Planning Co-op. (MAIBUNKYO)